

【報告】平成30年7月 台風7号及び梅雨前線がもたらした大雨による 徳山ダム防災操作の状況について

平成30年7月5日から7月7日にかけて台風7号とその後の梅雨前線がもたらした大雨による徳山ダムの防災操作の状況についてお知らせします。

1. 徳山ダム上流域の降雨状況

台風7号の通過とその後の梅雨前線がもたらした大雨は、徳山ダム地点において7月3日（火）深夜から降り始め、降雨が収まった7月7日（日）朝までの間に約350mmの降雨がありました。この間、ほぼ連続して時間雨量約10mmを超える降雨がありました。

2. 徳山ダムの防災操作

徳山ダムでは、貯水池に流入する水量が毎秒200立方メートルを超えた7月5日（木）午後1時50分から水量が毎秒200立方メートルを下回った7月7日（土）午前6時までの40時間にわたり全量をダムに貯留し、揖斐川下流の洪水を低減しました。

これにより、貯水位は標高390.5mから標高394mまでの3.5m貯留し、平成20年に徳山ダムが運用を開始して以来、最高の水位※となりました。

具体的な降雨と防災操作の状況は、別図を参照下さい。

※徳山ダムの洪水調節容量の最高水位は、標高401mです。

洪水調節した水量

貯留した水量 3,798万立方メートル（横山ダム総貯水容量 4,000万立方メートル）

貯水位の上昇 3.5m（40時間） 最高水位 標高394m



徳山ダム洪水吐（貯水池側）



貯水位が運用開始後最高の標高394mに到達

3. 洪水調節後の放流の再開

7月7日（土）未明から降雨が収まり貯水池に流入する水量が低減したことから、次の洪水に備えるため、今般の洪水調節で貯留した水は、揖斐川の下流の状況を確認しながら、7月7日（日）6時から放流を再開し、同日午前9時から、洪水吐きからの放流を行っています。

今後、天候が回復してもしばらく揖斐川の流量が多い状況が続きますので、河川には立ち入らないよう注意下さい。

洪水吐きからの放流は、7月11日（水）頃まで継続する見込みです。



洪水吐きから放流開始（7月7日午前9時）

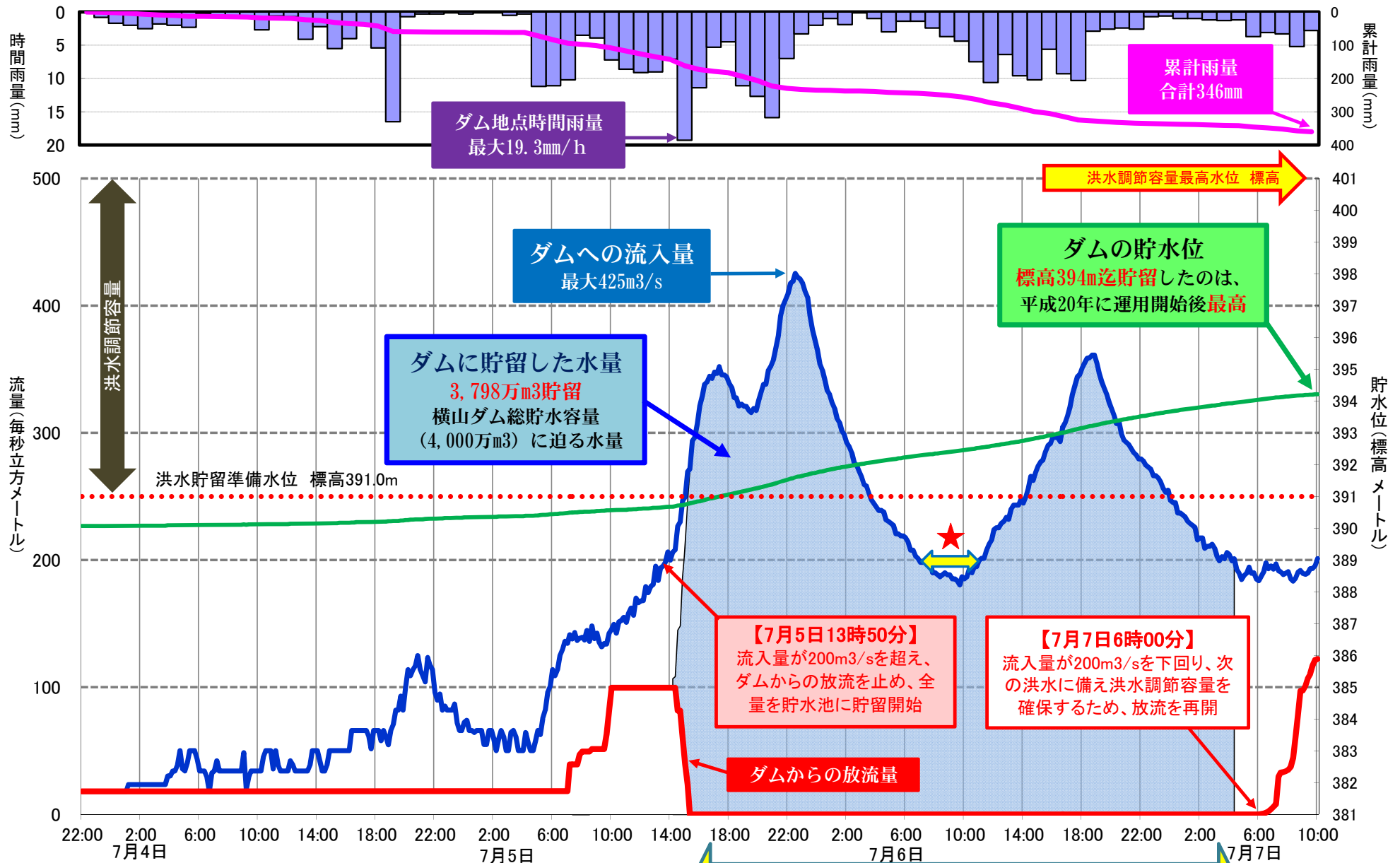


7月8日午前10時撮影



洪水吐きから放流する徳山ダムと貯水池（7月8日午後3時撮影）

別図 平成30年7月 台風7号及び梅雨前線がもたらした大雨による徳山ダム防災操作の状況 【平成30年7月7日（土）午前10時まで】



★特別防災操作【7月6日7時から11時迄の間の操作】

ダムへの流入量が毎秒200立方メートルを下回った場合、ダムからの放流を再開しますが、今般の大雨により、揖斐川下流の基準地点(大垣市万石)の水位上昇が予想されたため、引き続きダムへの貯留を継続する特別防災操作を行いました。

40時間にわたり全量貯留したのは、平成20年に運用開始後**最長**

長時間にわたりダムに流入する多量の洪水を貯め込み、揖斐川下流の洪水を低減